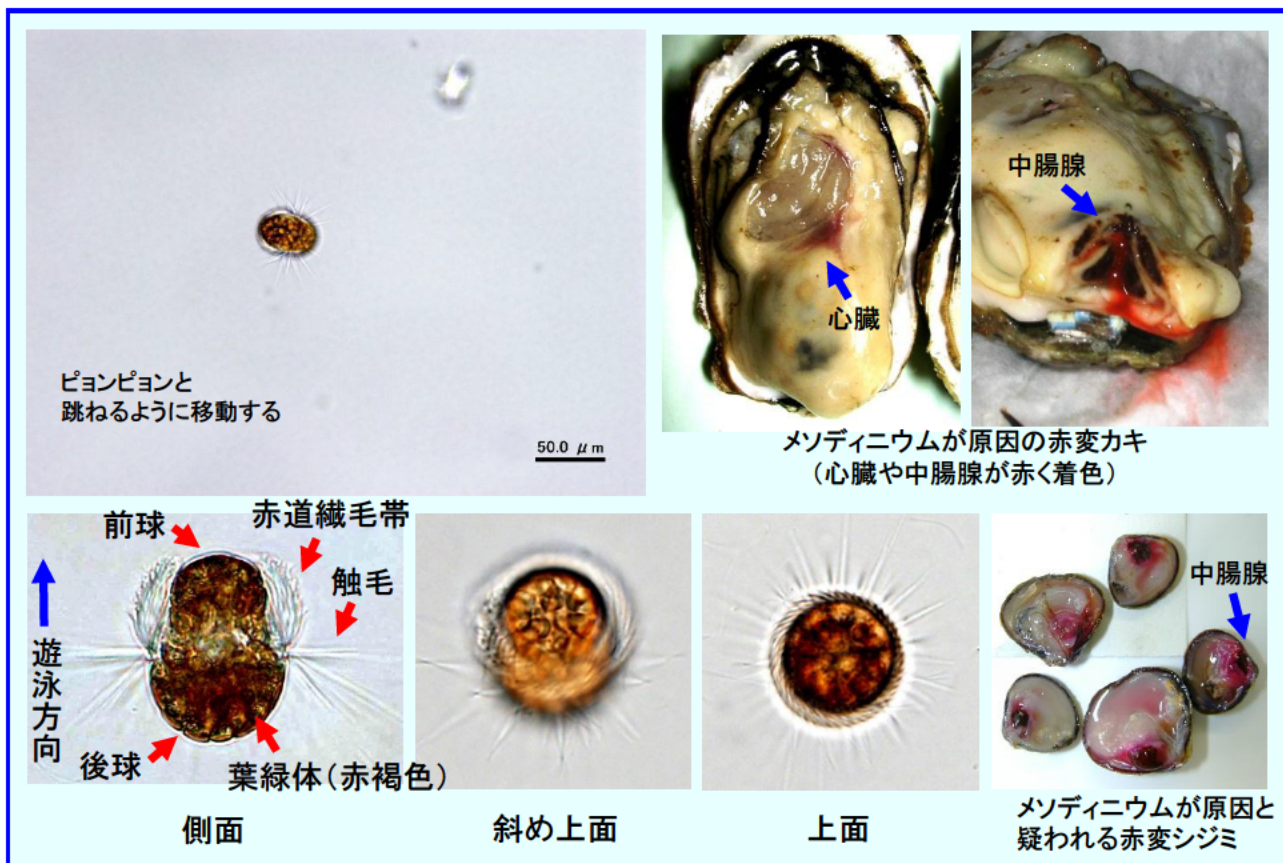


メソディニウム ルブラム(絨毛虫)

(*Mesodinium rubrum*)



大きさ: 長さ30~50μm

形態: 色は赤褐色。細胞は、大きさが異なる2つの球体がくっついたダルマ形で、小さい方を前球(ぜんきゅう)、大きい方を後球(こうきゅう)と呼ぶ。前球と後球の接合部には、放射状に長く伸びる触毛(しょくもう)と、前球を包むように密生する赤道絨毛帯(せきどうせんもうたい)がある。細胞内に多くの赤褐色の葉緑体をもつ。この葉緑体は細胞内に共生する藻類に由来し、本種は動物プランクトンでありながら餌を食べずに共生藻の葉緑体を利用して光合成で生活していると考えられている。

動き: ピョンピョンと跳ねるように移動と静止を繰り返す。移動速度は瞬間移動を思わせるくらい素早い。

旧名称: ミリオネクタ ルブラ(*Myrionecta rubra*)

漁業への影響: マガキの心臓や中腸腺(ちゅうちょうせん)と呼ばれる消化器官を赤色に変色させ、商品価値を低下させる。外観上は正常に見えても、出荷後に内臓から赤い液がにじみ出て問題になることがある。マガキ以外の二枚貝も赤変させる。低密度(10細胞/mlレベル)の発生でも赤変を引き起こす可能性があり、注意が必要である。ただし、赤変は、メソディニウムが消滅すれば、比較的短期間(1週間程度)で解消することが多い。

漁業被害: 三重県沿岸では赤潮に伴った漁業被害の記録はない。ただし、平成16年に的矢湾で養殖マガキの赤変が発生した際には、本種が60細胞/mlの密度で確認されている。平成16年に伊勢湾北部で発生したシジミの赤変も本種が原因であることが疑われている。

発生海域: 伊勢湾~熊野灘沿岸

発生時期: 8~2月頃(秋季~冬季中心)